めぐみ行動日誌（2017.11.1～12.31）

議会関係所属委員会／厚生保健委員会、行財政改革・大都市制度調査特別委員会、議会改革検討会議委員
議会運営委員会オブザーバー、基地対策協議会代表委員

11月

6日　厚生保健委員会
　　女もすなる都市計画
8日　浜松女性議員の会　乳児院など福祉施設視察

9日　御前崎市・原発避難計画について調査
11日～12月13日　11月議会
23日　みんなのカルチャースクール　震災編
24日　NAOTORAサミット
26日　「小1の壁を乗り越える」（学童保育を考える会）
30日　めぐみ一般質問（P2、P3参照）

12月

3日　ワークライフバランスシンポジウム コーディネーター
10日　配慮の必要な子の放課後を考えるシポジウム
　　コーディネーター

15日　行財政改革・大都市制度調査特別委員会
16日　みんなのカルチャースクール 女性のちから編
　　右から湯川れい子さん（音楽評論家）、
　　望月衣塑子さん（東京新聞記者）、
　　田嶋陽子さん（英文学・女性学研究者）

19日　厚生保健委員会視察（三島市、富士宮市）
22日　静岡政策研究会（沼津市）
26日　北浜幼稚園　減災教室

ママたちへメッセージ

私たちの時もその前も、女性たちが、ママたちが実際に声をあげ、社会を変えてきた。当事者の言葉は強いし、真実だ。どう変えたらいいのか、どう行動すればいいのか、私は一緒に考えるし、議会で発言もする。でも、実際の「声」はあなたから。あなたの声をぜひ聞かせてください。

一人ひとりのHAPPYのために

鈴木めぐみは、どの政党にも所属していません。
鈴木めぐみは、市民のための議員を目指しています。

めぐみProfile

1961年　浜松市鴨江生まれ、射手座B型
　　静岡県立浜松北高等学校、中央大学文学部卒業。
　　自動車販売会社にて、女性営業職第１号として
　　バンバン車を売る。長男出産後、女性、子育て、まち
　　づくりの市民活動に参加。
99～2011年　浜松市議会議員
2011年～　子ども・若者支援のNPOスタッフ
2015年～　浜松市議会議員（中区選出）4期目

浜松Happy化計画 レポートPart2

Happy plan for Hamamatsu!!

2018 新春号

Megu`s Voice!

やってみなければ わからぬではないか！

2017年浜松は大河ドラマ「おんな城主 直虎」で全国的に注目され、浜松の歴史や宝を再確認できた年でした。様々な苦難の連続の中でも、直虎は**「やってみなければ、わからぬではないか」**と家来たちを鼓舞し、新しい産業（織物、林業）を起こし、井伊を守っていきました。また、戦さのたびに愛する人たちを亡くしていくことから、「戦さのない世を作り出すこと」を目標とし、家康や今川家と凛として交渉していく姿は、現代に通じる女性のリーダー像でした。直虎は、自分のことより周りがどう豊かになるかを考える女性で、私もそうありたいと思います。

政治の役目は社会的弱者をできるだけ少なくしていくこと

さて、現在に転じると、今の社会は、物やサービスがあふれる豊かな社会になった一方、時代の変化が激しく、競争の激化、少子高齢化、情報化などの影響を受けて、誰しもが社会的弱者になってしまう可能性がある社会でもあります。「社会的弱者をできるだけ少なくしていく」のは、政治の大きな役割だと私は考えています。もちろん、行政だけが社会を構成しているわけではありません。自ら動く主体的な市民が増え、市民とともに２１世紀型の浜松での公共をつくっていきたいと考えています。

2018年もよろしく！

2018年に考えていきたいテーマは、これまでのことにプラスして
●郊外住宅地の高齢化（空き家、交通、生活など）
●子どもの豊かな放課後、遊び
●インクルージョン（包摂社会）のあり方
などなど。区の再編も、今年度中には一定の結論を出していかなくてはなりませんし、若い女性が浜松に戻りたくなる魅力あるまちづくりも待ったなしです。
他にも取り組みたいテーマいっぱい。
皆さん、無関心から脱却して、一緒に「知る」ことから始めてみませんか？
2018年も「一人ひとりのHAPPYのために」元気に活動していきます。

浜松市議会議員　中区選出　鈴木めぐみ

編集・発行　めぐみ応援・浜松市政向上委員会
浜松市東区半田山 2-5-10　TEL/053-431-1511
MAIL/megu@megumi-happy.net　FAX/053-544-5451
HP/www.megumi-happy.net

鈴木めぐみ自宅
浜松市中区曳馬 6-5-17
TEL/090-8672-8534
※めぐみ応援会員募集中・内部資料

11月議会
めぐみの
一般質問

浜松駅北口に障害者用送迎スペースの設置を！

参考・遠州鉄道上島駅

めぐみ提案！ 現在、浜松駅北口に障害者用送迎スペースがない。浜松市は2020年東京パラリンピックに向けて「共生社会ホストタウン」に登録する方針だが、市の玄関である駅北口で車椅子を使う障害者の送迎すらスムーズにできない町では、共生社会ホストタウンとは言えない。浜松駅北口に障害者用送迎スペースを早急に設置すべき。

●答弁

北口の障害者用送迎スペースについて、障がい者の声が反映できるよう、関係機関との協議を始める。

公共工事に障害者の声を！

めぐみ提案！ 多くの方が利用する公共施設、道路、駅などを新設・改修する場合に、必ず障がいのある方や障害福祉サービス事業者などの声を直接聞き、さらに使いやすいものにすべき。

●答弁

障がいのある方や関連事業者との意見交換を行い、既存施設の改修を含め、公共工事に反映させる仕組みを構築する。

防災マニュアルは、つくって終わりにしないこと！

めぐみ提案① 平成26年9月、「避難所運営マニュアル」が策定されているが、実践的な訓練がされていない。実践的な訓練するつもりはあるか。

めぐみ提案② 平成22年12月に策定された「福祉避難所の指定及び開設・運営マニュアル」は、施設を指定しただけで終わっている、また、市の担当者が決まっていない。マニュアルの見直し、実践的な訓練をすべき。

●答弁①

自主防災隊員を対象とした「地域リーダー養成研修会」を通じ、各地で実践的な訓練が行われるように取り組む。

●答弁②

マニュアルを含め、必要な見直しをする。市の担当者を定める。情報伝達や実践的な訓練は関係団体と調整していく。

※「福祉避難所」は、高齢者、障がい者、乳幼児などが滞在させることが想定される避難所。

原発災害への対応策に、主体的に関わること！

めぐみ提案！ 浜松は浜岡原発から31キロ圏外だが、万が一浜岡原発で災害が起きた場合、浜松市民も被害を受ける可能性がある。（福島第１原発から40キロ地点の飯館村は、被害が大きかった）市民への緊急時の行動の理解促進を図っていくべき。

また、浜岡原発の単独災害の場合、浜松市は御前崎市住民と菊川市の一部住民の避難を受け入れる町である。「県に聞かないとわからない」というのではなく、疑問点はどんどん先に県に聞き、意見を言い、市民に積極的に情報提供し、主体的に関わって欲しい。

性的少数者（LGBT）の理解と支援を！

めぐみ提案！ 策定中の男女共同参画計画の中に、性的少数者（LGBT）への理解と支援を入れる考えはないか。

●答弁

男女共同参画計画に性的少数者（LGBT）の理解の促進を盛り込む。また、性的少数者（LGBT）についての相談は「あいホール」の「悩みごと相談」で受け付ける。担当部署は、来年4月から「UD・男女共同参画課」に。

不登校についての教育長の認識は？

●教育長答弁

不登校は、学校・子ども・保護者それぞれが抱えている問題の相互作用による表れであり、それぞれのケースに応じた対応が必要。欠席を弾力的に認めることなど、不登校の子どもに寄り添った温かな対応を工夫していく。また、民間のフリースクールなどとの意見交換を行い、不登校の子どもの支援を充実させていく。

めぐみ提案！ 浜松市内の小中学校の30日以上の不登校は、ここ数年1000人を超えている。これまで、不登校を子どもや家庭だけの問題としてとらえ、不登校児童生徒や保護者をさらに追い詰める傾向があった。子ども自身も「学校に行かなくてならない」という強迫観念があるので、いじめなどがあって辛くても、身体に支障がきていても、無理をしても行こうとする。でも行けない。「苦しい」。保護者も、引っ張ってでも学校に行かせなくては、学校に行けないのは私の育て方が悪かっただろうか、と親自身も追い詰められていく。不登校のなるきっかけ、要因、背景は多様で、複雑だ。学校風土、環境の方が不適合を起こしているのではないかとの指摘もされているところだ。「教育機会確保法」の趣旨にのっとり、学校復帰のみを目的にするのではなく、子どもたちが必要な支援を受けて、社会的に自立できることを目的の不登校支援に転換をはかっていって欲しい。

一般質問を終えて

市長に区の再編と地域共生社会について質問した。市長は「行政の体制を変える区の再編と地域の福祉や保健サービスを変える地域共生社会の構築は、一緒に考えていくもの」との答弁があった。

私は、行政の体制と地域福祉は、饅頭の皮とあんこの関係とだとみている。皮が大きくきれいでも、中がスカスカで、あんこがちょびっとだと、美味しくない饅頭になる。あんこがいっぱい詰まった、つまり地域共生社会がしっかり構築した上に、行政の体制、仕組みという皮が包む感じにならないと安心した市民生活にならない。区の再編についての意見、聞かせてください。

※一般質問・答弁は、浜松市議会HPにて掲載されます。

Megu's Message

学校に行くことが辛い子どもたちへ

子どもにとって学校に行くのことが辛く苦しいことならば、無理して行く必要ないよ。親が子どもを無理して行かせる義務もないよ。

Megu's Information

子どもマンガ図書館、オープン

不登校の子たちの居場所・育ちの場を提供するフリースクール、NPO法人ドリームフィールド(東区天竜川町201)が、敷地内にマンガ図書館をオープンさせました。こたつもあり、くつろいで漫画を読むことできます。子どもなら、どなたでも無料で利用できますよ。子どもたち、疲れたら心を休みにおいで。

子どもマンガ図書館